

尊重しよう それぞれの性のあり方

LGBTにつ

いて知っていますか？

性のあり方は「男性」か「女性」の二者択一ではなく、グラデーションです。
それぞれの「性のあり方」に関する理解を深め、尊重し合える社会に向けて、「知る」ことから始めてみましょう。

性のあり方は多様

それぞれの人が自然に持っている性のあり方を認め合うことが大切です。

次の4つの要素から考えてみましょう。

1. 身体の性（生物学的性別）
外性器、内性器、生殖腺、性染色体など生まれた時の見た目（生殖器の形態）で判断された性別。
2. 性自認（こころの性）
自分で認識する自己の性
3. 性的指向（好きになる性）
恋愛感情や関心の対象がどのような性別に向いているか。
4. 性表現
服装やしぐさ、口調などにより、自分が外部に表現したい性。



4つは独立した要素で、どれか一つが決まれば他が決まるものではなく、グラデーションであり、組み合わせも多様です。

自分の性のあり方を、改めて考えることは少ないかもしれませんが。しかし実際には、トイレやお風呂、恋愛や結婚、服装、さまざまな書類、人間関係から法律・制度に至るまで、私たちは毎日性に関することに接して暮らしています。

いかなる性であっても、それぞれのあり方が尊重されることが、誰もが自分らしく生きられる社会につながります。

アビオおおもり登録団体にも、性的マイノリティをテーマに活動している団体があります。

アビオおおもり登録団体

検索

あなたの「SOGI（ソジ／ソギ）」は？

「SOGI」は、好きになる相手の性別（性的指向 Sexual Orientation）と自分の性別をどう思うか（性自認 Gender Identity）を表す用語です。
性的マイノリティだけでなく、私たちすべての人が多様な性の当事者であると考えられます。すべての人が「自分ごと」として性の多様性を考える動きが世界的に広がっています。

カミングアウトは？
びー 職場や身内には同性と付き合っていることを言っていない。職場は面倒くさいし、親からは孫の顔が見たいって言われている。
さや 親は全く気付いていない？
びー 薄々わかってるんだと思うけど、でもお互いはいはつきりとは言わない。心理戦ですね（笑）
エビ うちも特に言っていないけど、言ったところで気にしないと思います。
そう 本当！？
エビ うん。言うほどのことじゃないかなって。些細なことって感じ。
そう 自分は、性別を変えたことを仕事関係の人に勝手に広められたことがあって、笑い話のネタにされていました。
一同 えー！
そう 仕事しているだけでストレスがかかるっていう現状もあります。

性を語ることに
さや 自分の性別をどう思うか、どのような性別の人を好きになるかは、パーソナルな話の一部なんだ、と感じてきました。
そう LGBT当事者の知人が、「不当な扱いがなければ特に配慮はいらないです」って言って。それとおりなんですよ。
さや 性のあり方が一人ひとり違うことがあたり前のこととして認め合えるようになるといいですね（自分とエビを指さして）。
びー 実際、自分たちはあまり困っていないね（自分とエビを指さして）。
性的マイノリティの方は、周囲の理解不足や身近にはいないことを前提として扱われることで、不安や困難を抱えることがあると言われています。
周囲にカミングアウトしている人がいないくても、困っている人がいるかもしれないと想像してみよう。

「性的マイノリティ」は多様な性のあり方の中で、少数派の人々全体を総称するものです。
「LGBT」という言葉は、下図のそれぞれの頭文字をとった言葉で、性的マイノリティを表す総称の一つとして使われています。

L
G
B
T

レズビアン	性自認が女性で、性的指向が女性に向く人
ゲイ	性自認が男性で、性的指向が男性に向く人
バイセクシュアル	異性を好きになることもあれば同性を好きになることもある、性的指向が男女どちらにも向く人
トランスジェンダー	出生時に割り当てられた性別とは異なる性を生きる人、生きることを選ぶ人（からだの性とこころの性が違う人）

※LGBT以外にも性のあり方は多様です。

性的マイノリティの割合

3.3%～8.2%

「レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・アセクシュアル」と回答した人が3.3%。これに「決めたくない・決めていない」を加えると8.2%。

*アセクシュアル（恋愛や性愛の感情を他者に対して持たない人）
（厚生労働省国立社会保障・人口問題研究所「働き方と暮らしの多様性と共生」研究チーム、2019年）

座談会



参加者	年齢	職業
そう	42歳	会社員
びー	23歳	会社員
エビ	26歳	自営業
さや	34歳	自営業

想像してみよう

- ・当事者の「不安」や「困りごと」は？
- ・当事者からカミングアウト（本人が自分の意思で性のあり方を公表すること）されたら？
- ・ふだんから周囲の人ができることは？

こころの性からからだの性が違ったり、恋愛対象が同性だったたり、果内在住のいわゆる「性的マイノリティ」の人たちによる座談会を実施しました。「自分は、人と違うのかも」。それぞれが感じてきたこと、今思うことなどを率直に語り合いました。

みんなと違うことはおかしいこと？!
びー 学生の頃は、自分の性的指向が人と違うかもしれないとは思わず、まあこんなものだろうって思っていました。
さや 「好きな人は誰？」って話にならなかった？ 修学旅行の夜とか。
びー 「好きな「男子」は？」って聞かれた時は、「男子の中ならこの人かな」、って答えていました。「好きな人は？」と聞かれたら、同性も含めて一番好きな人と言っていたと思います。
一同 なるほど！
エビ 高校生の時に初めて男性と付き合いました。小学生から中学生にかけて男性になりたいたい気持ちが強くて。高校生の頃には自分が女性のことでも好きになれるって少し自覚はあったけど、それはおかしいことだと思っていました。
さや 周り（女性は男性と付き合うことが多数派）に合わせた？
エビ そうですね。
そう 自分は、最初はレズビアンかなって思っていました。20歳前後でトランスジェンダーというのを知り、23歳の時にインターネットでLGBTってこんなにいるんだって知った時に、「今、人生が始まるんだ」って思いました。
さや 「自分だけがおかしいんじゃないか」って思っていたことから脱却できたってこと？
そう LGBTの人は変な人たちだって偏見を持っていたから、ネットで知り合って話す普通の人たちが、すごくホッとしたのを覚えています。

オンラインの海へ、虹色の船出航

「さあ、出航だ。」コロナ禍只中の2020年6月7日、県内初の「オンラインレインボーパレード」が開催されました。県内の風景を撮影した映像にのせて、全国から寄せられた動画やメッセージを生配信。

「#青森レインボーパレード」と付けられたコメントがSNSを賑わせました。

主催した「青森レインボーパレード実行委員会」共同代表の宇佐美翔子さんと事務局の岡田実穂さんにお話を伺いました。



▶合成集合写真。「#青森レインボーパレード」のタグをつけてSNSに投稿された写真などをスタッフ総出で集めた。

6月の「プライド月間」(性的マイノリティの人権月間)に世界で行われるプライド/レインボーパレードは、多様性を象徴する虹色のフラッグを掲げ、街を練り歩くイベントです。

青森では2014年から毎年実施されています。宇佐美さんと岡田さんによると、青森レインボーパレードは3人で始まり、以後、できるだけ多くの人が参加しやすいように、柔らかな言葉で呼びかけをしてきたそうです。2019年の第6回目は208人が参加。広がってきた活動の次のステップとして「今年はアクティブなテーマを投げ掛けたかった。」(宇佐美さん)との思いから、あるスタッフが提案した「さあ、出航だ。」というテーマに全員が賛同、決定しました。

告知ポスターを作り、アフターパーティーは青森市の青函連絡船記念館八甲田丸を会場としました。しかし徐々に新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大。不安を募らせながらも企画会議を重ねていた2月、横浜港に寄港したクルーズ船において集団感染が発生。宇佐美さんは「感染対策をとったうえで、どうテーマを実現させ実施するのか具体策が出ず、中止や延期も視野に入っていた。」と振り返ります。

そんな中、1人のスタッフが「延期になったら、参加できない」と漏らしました。そのスタッフがまさに「出航」を提案した本人。これまでずっと関わってきて、今回初めてパレードで歩くことを決めていました。「夏頃には青森県を離れる」と打ち明けられ、スタッフ会議でパレード決行を決定しました。4月頃には世界で最も早くオンライン開催を発表。前人未踏の挑戦が始まりました。

青森のパレードに毎年参加している人たちが「いつもの青森の雰囲気」を思い出せるように、車載カメラを使用してまるで道を歩いているような動画を制作。互いに距離を保ちながら無言で記念撮影用の写真を撮影するなど、新型コロナウイルス対策を徹底しながら準備を進めました。

「青森が嫌なら東京に行けばいいじゃん」と投げかけられる言葉に傷つけられた。だけど青森だからできることがあるって言えるようになる。」(性的マイノリティの人が誰もいないことにはない、優しい青森に)「読み上げられるコメントと、集まった虹色の写真やイラストが次々と画面を彩りました。パリや香港、韓国からのメッセージも。「動画を送ること、青森と一緒に歩いているような、新しい体験をしている。」(青森レインボーパレード)はSNS上で盛り上がった話題「トメント」に上り、配信終了後もコメントが続々と届きました。

中には、地元でフラッグを掲げながら友人同士で歩いたという動画や写真がありました。「つまりこれは、その街で初めてのパレード。歩いた本人たちは気付いていなかったけど」と岡田さん。3人でまいた種が、思いがけない形で各地に芽生えていました。

動画の終盤に、岡田さんは思いを語りました。「大変な中ですが、私たちは一緒にこの世界を生きていると感じられるようなパレードをつくりたいと思った。来年も一緒に歩きましょう。」

性的マイノリティに関する電話相談

○「よりそいホットライン」

0120-279-338/365日24時間対応

(性別の違和や同性愛に関わる相談は、音声ガイダンスから4を選べば専用回線につながります)

○青森市男女共同参画プラザ「カダール」

性的マイノリティにじいる電話相談

017-776-8803/毎週火曜日9時~21時

(12/29~1/3は休館)

青森レインボーパレード実行委員会

2014年に発足し、以後毎年LGBTIQの権利擁護を推進するための「青森レインボーパレード」を実施。またLGBTIQに関する情報発信、啓発用冊子の作成、講師派遣、交流会、勉強会などを開催しています。

Twitter @RainbowAomori

HP <https://aomori-pride.jimdofree.com/>

(担当: 秋葉美早喜 石岡沙野)

